

4号発行に寄せて

理事 神竹孝至

ご承知の通り、新型コロナウイルス感染症は医療や福祉の在り方を大きく変えようとしています。新型コロナウイルス感染症が無くても徐々に変わっていったと思われませんが、変革のスピードがトップギアに入った感じです。例えば、オンライン診療はこれまで再診の患者のみが対象でしたが、コロナ感染症による「時限的・特例的な取り扱い」として、初診も解禁となりました。現在対応病院は15%程度とのことで、本格普及には一段の努力が必要ですが、従来に比べれば大きな進歩です。このオンライン診療が進展普及すれば、体の自由が利きにくい高齢者にとって大変ありがたいものになります。この号ではオンライン診療の現状について、先進事例やオンライン診療先進国であるデンマークの状況も含めて、報告しています。

私見ですが、今後さらに目指すべきは、本NPOの目標でもある、医療機関と福祉施設の連携でしょう。例えば高齢者は一般にIT機器の操作が不得手で、現状家族が手助けするのが通例です。ところが家族もIT機器が苦手という家庭も少なからずあります。そこに訪問看護やデイケアを含む福祉施設の出番があるように思われます。訪問看護師やデイケアの看護師などの専門家が、オンライン診療に同伴し、専門家ならではの視点から医師に状況報告し、指示を受けて今後の看護や介護に活かす。そんな未来を想像します。

これに限らず医療機関と福祉施設の連携は、乗り越えなければならない壁は大きいものの、効果が極めて大きいように思います。本NPOとしても全力を尽くしますので、関係各位のご支援とご協力をお願いします。

2021年6月

以上